

山崎明夫(著)

にほんごがこんなふうにみえたのよ！

39歳で脳出血！ オレの片マヒ & 失語な日常

評者 半田一登

(公社)日本理学療法士協会会長

今から1か月ほど前、書評を書いてほしいとの要請を受けました。当時は非常に多忙な日程となっていたために、いわばしぶしぶ承諾することにしました。それも障がいをお持ちの方が努力して書いたものであろうからというものでした。

ようやく時間が取れて、読み始めた途端に私の理学療法士としての嗅覚が目覚まし、一気に読み終えることになったのです。一般的に言う「おもしろい」というよりも、理学療法士生活38年の経験を振り返り、反省したり、同意したり、笑ったり、目に涙を浮かべたりしてしまいました。私たち専門職は疾病による症状は十分に理解しているつもりですが、その症状に対する患者さん本人の感覚や感じ方は理解不能な領域です。医療とは科学を下地としながら、患者個々に応じた治療なのです。本書では、ひとつひとつの症状に対して、端的に感じたことや思ったことを見事に表現しています。そのなかで、私が「エッ」と思った点をいくつかを原文のまま紹介します。

- 1) 実は半身不随の障がい者にとったら痒みは切実な問題で…
- 2) 大画面のスマホだと片手では操作が難しいのよ
- 3) 面白いことに世の中の大人の男性全員と目が合わなくなった
- 4) 自殺しようと思っていたのよね。でも納得して死にたいという気持ちでいたのよ…
- 5) 自殺しないのであればオレの尊厳というか…“バカ”になっている問題をどう納得するかが問題だった…
- 6) 患者としては自分の運命を受け入れようとしても、そう簡単に受け入れられないじゃん？ 皆が皆、無理だと思うのよ…
- 7) 喪失感たるや個人的には半端なくて…

- 8) 維持期って言っても、ミリ単位、マイクロ単位ではましになってるって実感がある訳で、障がい者になってから、ミリ単位の良い変化でも、この上なく幸せを感じられるようになったから、自分の変化が楽しくて仕方がないのよ(笑)

まえがきで、「自分と同じような障がい者の方にも読んでほしいです」とされていますが、私が一番読んでいただきたい方は、リハビリテーション医療や介護関係の学生や経験の浅い医療・介護専門職です。専門的な科学書といわれている書物よりも有効だと思います。

フレー！ フレー！ 山崎さん！！



B5判・152頁・2色刷(一部4色)

定価：本体1,200円＋税

(株)QOL サービス刊、2016年

TEL：084-948-0439

Fax：084-948-0641

メール：daybook@daybook.jp